

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷一十二第

行發日一月七年四十正大

論叢

國債利子及官吏俸給の免稅……………法學博士 神戸 正雄

自殺統計論……………法學博士 財部 靜治

米價と關稅との關係に就て……………法學博士 河田 嗣郎

說苑

商品堆積の理論……………經濟學士 谷口 吉彦

インフレーションの意義并に標準に就て……………經濟學士 小川福太郎

マクスの絶對地代と價值法則……………經濟學士 八木芳之助

雜錄

パンタレオニ氏業績の回顧……………經濟學士 松岡 孝兒

ジエームス・新マルサス主義……………經濟學士 岡崎 文規

統計拾穗抄……………法學博士 財部 靜治

京都帝國大學經濟學會大會記事

法令

大正十四年國勢調査施行令・失業統計調査令・船檢舶查規定中ノ改正

（禁轉載）

經濟法令

大正十四年國勢調査施行令

勅令第二百號 (大正十四年五月二十二日)

大正十四年國勢調査施行令

第一條 大正十四年國勢調査ハ大正十四年十月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條 大正十四年國勢調査ハ前條ノ時期ニ於テ帝國版圖内ニ現在スル者ニ付左ノ事項ヲ調査ス

一 氏名

二 男女ノ別

三 出生ノ年月

四 配偶ノ關係

前條ノ時期前ニ帝國ノ港灣ヲ發シ途中寄港セスシテ前條ノ時期後四日以内ニ始メテ帝國ノ港灣ニ入りタル者ハ大正十四年十月一日午前零時ニ帝國版圖内ニ現在シタル者ト看做ス

第三條 前條ノ調査ハ各世帯ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帯ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帯トス

家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帯トス其ノ一人ナル場合亦同シ

第二十一卷 (第一號 一四四)

寄宿舍、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサル者ハ一場屋又ハ一船舶毎ニ一世帯ニ準ス

第四條 世帯主又ハ世帯ノ管理者ハ其ノ世帯ニ現在スル者ニ就キ國勢調査申告書ヲ以テ第二條第一項各號ノ事項ヲ申告スルノ義務アルモノトス

第五條 國勢調査申告書用紙ハ之ヲ各世帯ニ配付ス

第六條 府縣知事ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第七條 郡長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ郡内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第八條 市長ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ市内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第九條 町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ町村内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第十條 市町村長ハ調査ヲ執行スル爲府縣知事ノ認可ヲ經テ市町村ノ區域ヲ調査區ニ分割ス但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十一條 國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ國勢調査員ヲ置ク

第十二條 國勢調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

國勢調査員ハ名譽職トス

第十三條 國勢調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ

際之ヲ佩用セシム

第十四條 國勢調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區内ニ於ケル國勢調査申告書用紙ノ配付、國勢調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ件ヲ請般ノ事務ヲ執行ス

第十五條 國勢調査員各世帯ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 郡市町村長ハ管内國勢調査ノ結果ヲ取纏メ國勢調査申告書及附屬書類ト共ニ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡長及市長ハ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ内閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ管内國勢調査ノ結果ヲ取纏メ之ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十七條 天災事變ノ爲國勢調査員第十五條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第十八條 内閣總理大臣ノ要求アリタルトキハ各省大臣ハ所管ノ官廳、官吏又ハ吏員ニ命シ内閣總理大臣又ハ其ノ指定シタル職員ノ指揮ヲ承ケ國勢調査ノ事務ニ服セシムヘシ

第十九條 本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳北海道廳長官ニ、郡郡長町村長ニ關スル規定

經濟法令

ハ郡長ヲ置カサル地及町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル地區官吏員ニ、市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市市長區區長ニ之ヲ準用ス

第二十條 本令ヲ適用シ難キ場所ニ關スル調査ニ付テハ内閣總理大臣別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十一條 朝鮮、臺灣及樺太ニ於テハ第二條第一項ニ掲ケル事項ノ外朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ノ必要ト認ムル事項ヲ併セ調査スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ内閣總理大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第二十二條 朝鮮、臺灣及樺太ニ執行スル國勢調査ニ關シテハ第四條乃至第二十條ノ規定ヲ適用セス朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官内閣總理大臣ノ承認ヲ經テ別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十三條 府縣市町村ニ於テ國勢調査ニ附帶シテ其ノ區域ノ全部又ハ一部ニ對シ必要ナル事項ヲ調査セムトスルトキハ其ノ事項及方法ヲ具シ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

〔參照〕
明治四十四年(四月七日公布)法律第六十八號市制抄錄
第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第八十二條 第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區

ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

失業統計調査令

勅令第二百二號 (大正十四年五月二十二日)

失業統計調査令

第一條 失業統計調査ハ大正十四年十月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條 失業統計調査ハ左ノ地域ニ之ヲ行フ

- 一 札幌市及其ノ附近
- 二 東京市及其ノ附近
- 三 京都市及其ノ附近
- 四 大阪市及其ノ附近
- 五 堺市及其ノ附近
- 六 横濱市及其ノ附近
- 七 横須賀市及其ノ附近
- 八 神戸市及其ノ附近

九 尼崎市及其ノ附近

十 長崎市及其ノ附近

十一 佐世保市及其ノ附近

十二 名古屋市及其ノ附近

十三 濱松市及其ノ附近

十四 仙臺市及其ノ附近

十五 金澤市及其ノ附近

十六 岡山市及其ノ附近

十七 廣島市及其ノ附近

十八 吳市及其ノ附近

十九 和歌山市及其ノ附近

二十 門司市及其ノ附近

二十一 八幡市及其ノ附近

二十二 夕張町及其ノ附近

二十三 足尾町及其ノ附近

二十四 大牟田市及其ノ附近

前項附近ノ地域ハ内閣總理大臣別ニ之ヲ定ム

第三條 失業統計調査ハ第一條ノ時期ニ於テ前條ノ地域内ニ現在スル左ノ者ニ付之ヲ行フ

一 勞働者又ハ給料生活者タリシ者ニシテ現ニ失業者タルモ

二 現ニ勞働者又ハ給料生活者タル者

第四條 前條第一號ニ掲クル者ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス

一 氏名

- 二 男女ノ別
 - 三 出生ノ年月
 - 四 配偶ノ關係
 - 五 世帯主ナルヤ否ヤ
 - 六 世帯員ノ數 (但シ世帯主ナル失業者ノ場合ニ限ル)
 - 七 失業當時ノ職業
 - 八 失業當時ノ勤務先
 - 九 失業ノ原因
 - 十 失業ノ年月日
 - 十一 失業當時ノ賃銀又ハ給料
- 第五條 第三條第二號ニ掲クル者ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス但シ第七號乃至條十三號ニ掲クル事項ハ最近一年内ニ失業セシコトアル者ニ付テノミ之ヲ調査ス
- 一 氏名
 - 二 男女ノ別
 - 三 出生ノ年月
 - 四 配偶ノ關係
 - 五 現在ノ職業
 - 六 現在ノ勤務先
 - 七 失業當時ノ職業
 - 八 失業當時ノ勤務先
 - 九 失業ノ原因
 - 十 失業ノ年月日
 - 十一 失業當時ノ賃銀又ハ給料
 - 十二 失業後就業シタル年月日
 - 十三 就業當時ノ賃銀又ハ給料
- 第六條 失業統計調査ハ各世帯ニ就キ之ヲ執行ス

經濟法 令

- 本令ニ於テ世帯ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帯トス
- 家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帯トス其ノ一人ナル場合亦同シ
- 寄宿舎、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋毎ニ一世帯ニ準ス
- 第七條 世帯主又ハ世帯ノ管理者ハ其ノ世帯ニ現在スル者ニ就キ失業統計調査申告書ヲ以テ第四條各號又ハ第五條各號ノ事項ヲ申告スヘシ
- 第八條 失業統計調査申告書用紙ハ之ヲ各世帯ニ配付ス
- 第九條 府縣知事ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス
- 第十條 郡長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ郡内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス
- 第十一條 市長ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ市内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス
- 第十二條 町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ町村内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス
- 第十三條 市町村長ハ調査ヲ執行スル爲府縣知事ノ認可ヲ經テ市町村ノ區域ヲ調査區ニ分割ス
- 第十四條 失業統計調査ノ事務ノ執行ヲ指導セシムル爲必要アルトキハ府縣知事市町村ニ失業統計調査指導員ヲ置クコトヲ得
- 第十五條 失業統計調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ失業統計調査員ヲ置ク
- 第十六條 失業統計調査指導員及失業統計調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

失業統計調査指導員及失業統計調査員ハ名譽職トス
第十七條 失業統計調査指導員及失業統計調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十八條 失業統計調査指導員ハ府縣知事又ハ郡市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ調査事務ノ執行ヲ指導ス

第十九條 失業統計調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區内ニ於ケル失業統計調査申告書用紙ノ配付、失業統計調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第二十條 失業統計調査員各世帯ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル失業統計調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 天災事變ノ爲メ失業統計調査員前條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第二十二條 内閣總理大臣ノ要求アリタルトキハ各省大臣ハ所管ノ官廳、官吏又ハ吏員ニ命シ内閣總理大臣又ハ其ノ指定シタル職員ノ指揮ヲ承ケ失業統計調査ノ事務ニ服セシムヘシ

第二十三條 本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳北海道廳長官ニ、郡市長町村町村長ニ關スル規定ハ郡長ヲ置カサル地及 村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ヲ相當スル地區官吏員ニ、市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市市長區區長ニ之ヲ準用ス

船舶検査規程中ノ改正

逕信省令第三十八號 (大正十四年六月五日)

第七條 第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

進水後二十年以上ノ木製汽船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ス但シ現狀特ニ良好ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

同條第四項ヲ左ノ如ク改ム

検査官吏ハ前項但書ノ規定ニ該當スト認ムル木製汽船及外板其ノ他要部ノ衰耗著シク從來ノ資格ヲ繼續セシムヘカラスト認ムル船舶ニ付テハ其ノ現狀ヲ明カニシタル報告書ニ意見ヲ具シ逕信大臣ノ指揮ヲ受ケ其ノ資格ヲ定ムヘシ

第十四條ノ第二項第一號中「船底」ヲ削リ第二號中「船底」ニ屬スル艀並ニ嘴子ヲ「機關器具」ニ改ム

第一百十一條 第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

既ニ使用シタル汽罐ニシテ第一號ノ水壓試驗又ハ之ト同一程度ノ水壓試驗ヲ受ケタルモノハ製造後七年未滿ノ場合ニ限り第一項又ハ第三項ニ該當スルトキト雖検査官吏ノ見込ニ依リ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

附則

本令ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス本令ニ依リ第一級船又ハ第二級船ノ資格ヲ失フヘキ木製汽船ニ付テハ本令施行ノ際現ニ有スル船體特別検査期間ノ滿了迄該資格ヲ存續セシムルコトヲ得

本令ニ依リ第一級船又ハ第二級船ノ資格ヲ失フヘキ木製汽船中地方ニ於ケル交通狀況其ノ他ノ事情ニ依リ己ムコトヲ得スト認メラルルモノアルトキハ管海官廳ニ於テ逕信大臣ノ指揮ヲ受ケ一定期間ヲ限り仍ホ從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得